

対 策 計 画 書

届出者	住所	大阪府堺市堺区大仙西町六丁184-2	氏名	社会医療法人 同仁会 理事長 斎藤 和則
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		入院や外来診療を中心に医療サービス全般を実施している事業所		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間			
2019 年	4 月	1 日	～ 2022 年 3 月 31 日 (3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量		4,120 t-CO ₂	
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)		4,388 t-CO ₂	
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)		4,000 t-CO ₂	
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		4,260 t-CO ₂	
選択	レ	目標削減率 (排出量ベース)	3.0 %
		目標削減率 (原単位ベース)	%
		目標削減率 (平準化補正ベース)	3.0 %
目標削減率に関する考え方			
<p>患者さんエリアは快適な療養環境の向上に配慮し、職員エリアには不必要な照明の消灯やエアコンの設定温度を省エネ設定 (冷28℃暖20℃) の協力を訴え温室効果ガス排出量削減に努めていきます。</p>			
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量			
目標年度における吸収量	t-CO ₂	吸収量による削減率	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>法人で、温暖化対策に取り組むための組織体制を立ち上げ、目標年度までに確立に努める。</p>
--

対 策 計 画 書

届出者	住所	尼崎市今福1丁目2番2号	氏名	東洋リビングサービス株式会社 代表取締役 井出本 英治
特定事業者の主たる業種		78洗濯・理容・美容・浴場業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		リネンサプライ事業 1、様々な繊維製品を貸与して定期的に洗濯した清潔なものと交換するリネンサプライ業 2、無塵・無菌服のクリーニングと滅菌 3、上記アイテムの販売		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間			
2019 年	4 月	1 日	～ 2022 年 3 月 31 日 (3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量			3,590 t-CO ₂
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)			3,717 t-CO ₂
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)			3,482 t-CO ₂
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))			3,606 t-CO ₂
選択		目標削減率 (排出量ベース)	%
	レ	目標削減率 (原単位ベース)	3.0 %
		目標削減率 (平準化補正ベース)	3.0 %

目標削減率に関する考え方

- 1、前年比1%原単位低減 (3ヶ年3%) を目標に推進する。
- 2、生産効率向上を中心に推し進める。

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量

目標年度における吸収量	t-CO ₂	吸収量による削減率	%
-------------	-------------------	-----------	---

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産重量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エネルギー管理統括者：尼崎事業所 製造部課長 エネルギー管理企画推進者：泉大津事業所 所長	
係長会議 (2回/月) 経営会議 (1回/週) 生産技術会 (1回/月) でエネルギー使用状況、原単位推移をチェック。省エネ活動の進捗やその効果を継続確認していく。	

対 策 計 画 書

届出者	住所	東京都大田区新蒲田1丁目7番4号	氏名	株式会社 東横イン 代表執行役社長 黒田 麻衣子
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ビジネスホテル 大阪府には24店舗（2019年3月末時点） 計画期間内に5店舗オープン予定。		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間		2019 年 4 月 1 日～ 2022 年 3 月 31 日 (3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量		10,050 t-CO ₂
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)		10,678 t-CO ₂
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)		12,300 t-CO ₂
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		13,315 t-CO ₂

	選択	目標削減率 (排出量ベース)	%
	レ	目標削減率 (原単位ベース)	2.8 %
		目標削減率 (平準化補正ベース)	0.9 %

目標削減率に関する考え方

ビジネスホテルは客室稼働がエネルギー消費量と密接な関係を持つため、稼働室数 (1000室単位) による原単位での比較で行う。
 [2018年度実績値] CO₂総排出量:10,050 t-CO₂ 原単位:7.2 t-CO₂/千稼働室数。
 (2019年度～22年度の平均目標値) CO₂総排出量:12,300 t-CO₂ 原単位:7.0 t-CO₂/千稼働室数
 (期間内 5店舗開業に伴う稼働室数増)

ビジネスホテルのエネルギー消費量は宿泊されるお客様の人数や使用方法により左右されます。お客様の理解のもとエネルギー消費量の削減を図る。
 今後の計画期間に於いて、異常気象等を含め削減が困難と考えられますが、1%以上の削減を目標とします。

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量

目標年度における吸収量	t-CO ₂	吸収量による削減率	%
-------------	-------------------	-----------	---

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (客室稼働数)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

各店舗の支配人を中心に、削減対策を、運用面及びハード面からの対応を協議し進める。

対 策 計 画 書

届出者	住所	東京都渋谷区神南 1-10-1	氏名	株式会社ドトールコーヒー 代表取締役社長 星野 正則
特定事業者の主たる業種		76飲食店		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		コーヒー製造業と販売を基本とし、主たる事業として日本全国に、喫茶FCチェーンを1,256店舗出店しています。その内、大阪府内には80店舗を出店しています。		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間			
2019 年	4 月	1 日	～ 2022 年 3 月 31 日 (3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量		3,411 t-CO ₂	
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)		4,035 t-CO ₂	
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)		3,308 t-CO ₂	
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		3,914 t-CO ₂	
選択	レ	目標削減率 (排出量ベース)	3.1 %
		目標削減率 (原単位ベース)	%
		目標削減率 (平準化補正ベース)	3.0 %
目標削減率に関する考え方 店舗の日々の課題として空調の定期清掃の実施と室温夏季28℃・冬季20℃を管理して節電を推進してまいります。			
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量			
目標年度における吸収量	t-CO ₂	吸収量による削減率	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

別添のとおり	
--------	--

対 策 計 画 書

届出者	住所	兵庫県神戸市中央区小野柄通7-1-1 日本生命三宮駅前ビル11階	氏名	株式会社 トリドールジャパン 代表取締役社長 恩田 和樹
特定事業者の主たる業種		76飲食店		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		セルフサービスの讃岐うどん専門店「丸亀製麺」を中心に、大阪府内で79店舗の飲食店を運営しています。		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間			
2019 年	4 月	1 日	～ 2022 年 3 月 31 日 (3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量			8,671 t-CO ₂
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)			9,943 t-CO ₂
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)			10,520 t-CO ₂
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))			12,060 t-CO ₂
選択		目標削減率 (排出量ベース)	%
	レ	目標削減率 (原単位ベース)	3.0 %
		目標削減率 (平準化補正ベース)	3.0 %
目標削減率に関する考え方			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画期間中、大阪府内店舗の合計売上は2.5%拡大すると想定しました。 ・ 排出原単位は、過去3年間で12.8%と大幅な削減となりましたが、今後3年間も着実に毎年1%ずつの削減を継続することを目標と決めました。 			
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量			
目標年度における吸収量	t-CO ₂	吸収量による削減率	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(府内全店舗の合計売上高)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>環境負荷軽減を経営の最優先課題のひとつと位置づけ、社長の直下にEcoPJを設置。着実な目標達成に向けてWBSを作成し、月次で進捗管理を行っています。</p>

対 策 計 画 書

届出者	住所	大阪府富田林市常盤町1番1号	氏名	富田林市役所 富田林市長 吉村 善美
特定事業者の主たる業種		98地方公務		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		富田林市役所として、富田林市の地方行政を執り行っている。		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間			
2019 年	4 月	1 日	～ 2022 年 3 月 31 日 (3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量		8,894 t-CO ₂	
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)		10,019 t-CO ₂	
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)		8,476 t-CO ₂	
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		9,548 t-CO ₂	
選択	レ	目標削減率 (排出量ベース)	4.7 %
		目標削減率 (原単位ベース)	%
		目標削減率 (平準化補正ベース)	4.7 %
目標削減率に関する考え方			
<p>2013年度の排出量は11,138t-CO₂(電力の排出係数0.522)であり、2030年度には8,150t-CO₂まで削減が必要。2018年度比で18.66%削減が必要となり、年1.56%削減で達成可能なので、2021年度で4.7%削減を目標として設定した。</p>			
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量			
目標年度における吸収量	t-CO ₂	吸収量による削減率	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>富田林市地球温暖化対策実行計画評価・検討委員会を開催し、実行計画の進捗状況を確認し、目標の達成に必要な施策を検討します。また、富田林市地球温暖化対策実行計画推進委員会を開催し、推進委員の所管する組織における取組の推進や取組状況の把握、活動量の把握を総括し、事務局である環境保全担当課の要求に応じて報告するような体制をとっております。</p>
